

3-3 社会実験の結果と課題

(1) 社会実験の結果

社会実験の検討経緯の概要は、表 3-4 のとおりである。

また、社会実験において、3 地区で作成された行動計画（案）を次頁以降に示す。

表 3-4 社会実験（ワークショップ）の検討経緯

	有明台小学校区	松浜小学校区	亀田西小学校区
<p>第1回 ワークショップ テーマ： わがまちの安全安心の点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校区は、新潟市内でも高齢者・単身者の多い地域であり、災害が発生した場合の高齢者対策を中心に議論が進んだ。 ・地域内で、古い建物が多く狭い道も多いことから地震災害に対する不安が多く出され、また、新潟地震の経験から、液状化への不安を話す人も多かった。 ・地域活動の点からは、アパートや寮に住んでいる人との交流がないことを課題として挙がっていた。 ・その他、停電や道路交通など、生活に関連した不安に関する意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松浜小学校区は、地域内での標高の高低差が大きく、大雨が降ると高いところから低いところへ一気に水が流れるため、低いところに住んでいる住民の方から、平成10年の8・4水害を例に出して水害が不安であるとの意見が出された。 ・堤防が古くなっているため、津波が一番不安であるとの意見もあった。松浜小学校区は、海と川に囲まれた0m地帯であることをはっきりと認識したほうがよいとの指摘もされた。 ・外国人に関する意見もあり、コミュニケーションをとることが難しいということが課題として挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・亀田西小学校区は、全体的に標高が低く、水害に対して不安を感じる人が多かった。 ・亀田西小学校区は、9～10月にも同様のワークショップを実施していたためか、「あいさつをころがける」、「中学生を地域の活動に巻き込みたい」など地域活動を活性化させるための具体的な議論が進んだ。 ・学校の先生からは、避難所は必ずしも「安全な」場所ではなく、①校舎も体育館も耐震性に関して不安がある、②児童・生徒を安全に下校させることも不安である、③教職員は地域外に居住している人が多く休校日に災害が発生した場合対応できない可能性が高い、という意見が出された。
<p>第2回 ワークショップ テーマ： コミュニティ活性化方策の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校区は、新潟市の中心部近くにあるため事業所が多く、事業所の人たちにも地域のことを知ってほしい、企業の所有するビルの屋上に上げてほしい、病院として無料で応急手当講習をできるか、といった意見が出された。 ・地域活動に人を集めるためには、ポイントや景品を出すのがよいとの意見が出されましたが、景品ばかりに目がいついて、安全・安心について地域で考えるという本来の目的を忘れてはいけないという意見も出された。 ・アルビレックス応援やもちつき大会など、それ自体楽しめる活動も多く挙げられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教えるなど、防災を前面に出すのではなく、「それ自身が楽しい」イベントにさりげなく防災要素を組み込むのがよいとの意見が出された。 ・松浜地区は新規住民が多いため、自分の故郷や会社などを紹介したり、習字や詩吟など自分の特技を披露する場を設けることが交流の拡大に良いのではないかと意見が出された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園清掃、廃品回収に、学校と地域が共同して実施し、子どもの参加のついでに親にも参加してもらい、参加層を拡大させることができるという意見が出された。 ・中学生に子どもの世話をさせるなど地域の役割を与えることで、中学生を地域活動に巻き込もうという意見が出された。 ・若い人への個別参加依頼は難しいので、部活など若い人の含まれる団体そのものに呼びかけるのがよいという意見が出された。 ・学校内に地域活動の掲示板を置かせてもらい、地域に子どもを呼び込む他、学校の近くに子どもの「たまり場」をつくり、そこに地域が入っていく方法も提案された。 ・亀田製菓など、周辺の企業の工場見学を企画してはどうかとの意見が出された。
<p>第3回 ワークショップ テーマ： 行動計画の作成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災運動会を参加しやすくして魅力的な企画を盛り込むことで、多世代の参加を促進する。 ・清掃活動など日常から取り組む活動について、地域や学校などの主体が個別に取り組むのではなく、多様な主体が連携して取り組む。 ・災害記憶の風化を防ぐと共に、地域を知らない人に地域を知ってもらうきっかけづくりとしての地域マップや写真展示会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が多く集まる祭りや地引網などに、安全安心の要素を取り入れることで、多世代や外国人とのコミュニケーションを図る。 ・既存の団体の連携により、各団体が有している情報網などを上手に活用し地域のネットワークを強化する。 ・地域が活動しやすい場所としての学校や公共施設を活用する。 ・複数のイベントや活動を合同で開催することで、活動主体間の連携・交流を促進したり、新たなリーダーの育成を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生は地域の宝という認識を持ち、地域と学校が連携を強化することで、地域活動の活性化による安全安心な地域づくりや地域の力を利用した教育などの相乗効果が期待できる。 ・地域を知ることが安全安心につながるため、企業と連携した地域見学や地域だよりの作成を行う。 ・情報発信の方法は既存のツールだけでなく、学校などを活用してより多くの人に発信していくことが提案された。

各グループの行動計画（案）のまとめ（有明台小学校区①）

活動内容	いつ実施 （頻度、時期 など）	どこで実施 （活動場所）	誰が実施 （活動主体、参加者、支援者 など）	どのような工夫	解決する 地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター、リーダーの育成 ・防災運動会、防災訓練 ・防災検定 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月27日（日） 	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校 	<p>主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明台校区自主防災会 ・有明台小学校区コミュニティ協議会 <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 <p>支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市 ・新潟市中央区 ・消防団、消防署、警察署 ・防火連合・防犯協会・安全協 ・民主協・婦人会 ・スポーツ振興会 ・ヤマダ電機さん他地域内の事業所 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに視点を向けた防火訓練 ・防災駅伝ゲームを試みる ・おじいちゃん、おばあちゃんを守るために、君たちは何ができますか（防災くんれん）啓発ポスター ・健康のテーマや検診を取り入れるなど工夫（妊婦、検診など） ・防災や防犯のセミナーフォーラム、研修等の開催、啓発（防災教育） ・ゼロメートル地帯の人に必ず出してもらう ・学校や企業の屋上に上げてもらい、地域を知る ・時間を短くして参加しやすくする ・アルファ米だけでなく、焼そば、豚汁など提供 ・子どもにはお菓子、大人には商品券など景品を用意 ・行政は、立ち上げ時だけでなく、継続するための支援をする ・各世代の人による企画づくり（例えば、PTAの方に主体的に参加して頂く） ・チーム（町内）対抗で盛り上げる ・地元企業から協賛を募る ・防災博士号（認定書）を授与することによって、防災知識の高揚につなげる ・声掛けで参加者を募る ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり（食べる、作る、見る、体験する、選べる） ・地域にはイベントを運営するノウハウはある ・父親と母親を呼ぶ ・地域マップの配布 ・運動と健康 ・健康診断 メタボ検診 ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり（食べる、作る、見る、体験する、選べる） ・車をまわして高齢者を集める ・3人1組（友達を誘い合う）などグループで参加する ・大人と子どもで3人を1グループとして参加してもらう ・チーム対抗 現状：町内会単位 ・子どもと両親を一緒に呼べる企画づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・水害が一番怖い ・災害の記憶が風化している ・日常からの住民との会話が必要である ・避難しようとしにくい高齢者が多い ・液状化が心配である ・どちらの避難場所に避難すればいいかわからない ・防災訓練の参加者が固定している ・雨が降るとすぐ冠水する場所がある ・災害時の連絡方法を決める必要がある ・あいさつが少なくなってきた ・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない ・アパートの人のことを知らない
<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動 ・母親を集める活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月5日（日） ・9月6日（日）頃 ・8月23日（日）頃 ・7月（小学校）平日 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区全域 ・主に信濃川河畔 ・関屋分水河畔 ・関屋中学校裏 ・海岸清掃 ・公園 ・1区自治会 	<p>主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校区コミュニティ協議会 <p>主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関屋大川前一区自治会 ・一区自治会町民 <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明台校区住民 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が個別に実施している海岸清掃の合同実施 ・回覧板だけでなく、学校PTAにも呼びかけ ちらしの配布 ・子どもに参加費を出すなど（宝もの探しなど取り入れる） ・進学など子供に関する情報提供をする ・幼稚園には母親がたくさん集まる。そこに防災の専門家が講習を行う ・まずは母親に地域活動を知ってもらい、父親を動かしてもらう ・ひがん花の植栽を同時に！ ・腰かけを用意する（高齢者のために） 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交流 ・子どもの環境衛生の関心度を高めて（環境教育） ・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない

各グループの行動計画（案）のまとめ（有明台小学校区②）

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・母親を集める活動 ・お楽しみ会&餅つき会 	<ul style="list-style-type: none"> ・11月15日(日) ・12月6日(日)頃 	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校 	主催 <ul style="list-style-type: none"> ・関屋大川前一区自治会 主催 <ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校区コミュニティ協議会 参加者 <ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校区 住民 参加者 <ul style="list-style-type: none"> ・一区自治会 町民 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの参加可能なイベントを考える 中学校 高校生の参加(ダンス部呼びかけ) ・バザーの実施(女性は「バザー」という言葉が大好き) ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり(食べる、作る、見る、体験する、選べる) ・子どもにはお菓子、大人には商品券など景品を用意 ・子どもと両親を一緒に呼べる企画づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交流 ・文化・伝統の継承 ・子どもの素顔が見える(地域住民の応援隊。学校生活が見えて喜ばれる) ・工夫することによって(創作活動)地域の大人とのふれあいが増す
<ul style="list-style-type: none"> ・子供教育地域マップの作成 ○有明台の歴史マップ →街の発展 ○地域の危険な所の写真展(防犯・防災) ○子供教育 地域マップの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・10月 	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域安全DVDの作成(いつでも、何度でも見れる) ・防災運動会で活用 地域防災マップを“下敷きにする” ・文化祭の活用(歴代の写真、アルバム) ・古い写真の提供 ・創立記念日に作成したDVDがよかった(昔の有明台) ・今までのノウハウを使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の記憶が風化している ・災害や犯罪情報などについて、地域掲示板を店舗などに置かせて欲しい ・お年寄りの所まで子供が出向き、清掃活動と防災・防火パトロール ・薬師神社の祭 春→民謡 秋→関屋大階節
<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体のサマーキャンプ +きもだめし +文化活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月下旬 	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校 	参加 <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民 ・児童生徒 支援者 <ul style="list-style-type: none"> ・医療検査機関 (or 医療機関) ・消防署 	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の負担をへらす 朝ごはんをアルファ米→お年寄りを活用 ・ケガとか心配なため、ボランティアを募集 ・子供100人以上 → 親30人以上 ・子どもと両親を一緒に呼べる企画づくり ・料理人を活用 ・高校生への広報 → 活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・30歳~40歳の人が率先して動ける組織がない ・高校生を活用する必要がある
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の写真 ・発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋(11月頃) 小学校の文化祭とあわせる 1回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・有明台小学校(体育館) 	活動主体 <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会 ・PTA 参加者 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生、中学生 ・地域内の愛好家 支援者 <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマダ電機様 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭と同時開催することにより、多くの参加者 ・展示会後に(優秀作品)はヤマダ電機に展示してもらう ・第一高校の写真部に呼びかける ・年代別に賞を設ける ・自治会が地元の愛好家に声をかける 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の記憶が風化している ・高校生を活用する必要がある ・地域をよく知らない方に、地域を知ってもらう ・アパートの人のことを知らない ・日常からの住民との会話が必要である
各種行事における共通点として				<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民のワークショップの立ち上げ ・おやじだけのワークショップ 若年層の取り込み ・女性(婦人)だけのワークショップ ・各世代の人による企画作り ・行政は、立ち上げ時だけでなく、継続するための支援をする ・インターネットなどで、欲しいときに欲しい情報が入手できる工夫 ・資金集め(廃油回収、委託事業の活用) ・ポイントを集めて企業のポイントに換えられる工夫 ・年間活動計画の一覧を作成し、案内を実施 ・若者達が参加したい行事についてアンケートを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生、中学生、高校生を活用する必要がある ・道路が狭いところが多い ・アパートの人のことを知らない ・30歳~40歳の人が率先して動ける組織がない ・あいさつが少なくなってきた ・災害や犯罪情報などについて、地域掲示板を店舗などに置かせて欲しい ・高齢化が進んでいるので防犯委員にPTAの協力が欲しい

各グループの行動計画（案）のまとめ（松浜小学校区①）

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・松浜祭 ・盆踊大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月24日、25日 ・8月17日 	<ul style="list-style-type: none"> ・松浜小学校区全体 ・稲荷神社 ・商店街 	<p>活動主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの自治会 ・松浜稲荷神社 ・北新潟商工会 <p>参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員だけど特に、地域を離れた子どもや家族 <p>支援者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生 ・警察の方 ・企業 ・本町1,2 商店街 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎮守まで人を呼ぶにはスタンプラリー ・祭りのコーディネーターが必要 ・小学校の連絡網をうまく使う ・運営資金を集める ・民謡を流す ・運営（仕方）も工夫する必要あり ・中学生に祭りの山車をつくってもらう ・催事の準備を通して交流（みこしを皆でつくる） ・高齢者が楽に見て参加できるスペースを確保する（車イスのスペースなど）、観客席を作る ・ひとり暮らしの高齢者を誘って参加してもらう ・広報誌を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居世帯に情報が伝わるか心配 ・若い世代の参加が増える ・コミュニティの希薄化、疎遠化
<ul style="list-style-type: none"> ・盆おどり踊りを覚えて発表会（子供は一時間くらいでおどりを覚える） ・子ども太鼓（松浜太鼓の文化継承） 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回 夏 ・2日続けて ・盛り上がっている時に終わりにならないように時間はたっぷり（夜11時まで） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のグラウンド（なかなか貸してくれない） ・1日目：小学校 ・2日目：中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・育成協とコミュ協の協働 ・地方に共同主催をお願いする（謝礼はするが…） ・盆おどり保存会 ・松浜太鼓保存会 	<ul style="list-style-type: none"> ・不用品の一品寄付を参加費にする ・苦情（うるさい）が来ないように周辺住民には○事前をお願い ○地域の旅行に行ってもらう ・盆おどりが終わったらグラウンド清掃、ローラーかけ ・学校を会場にすれば、卒業生が集まりやすい ・学校に協力してもらう ・子どもがケガをしないように ・祭のときに育成協が防犯パトロール ・祭のときに防犯・防災の実践活動 ・祭のあとでみんなで後片付け（学校はみんなの施設） 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人との言葉の問題（コミュニケーション）
<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動とイベントを合わせて実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃は「海の日」（7月の第3月曜） ・町内一斉清掃 月1回 ・公園清掃 毎月か2ヶ月に1回 ・下水清掃 5～10月 毎月か2ヶ月に一回 	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸 ・自治会館 イベント ・公園 清掃後イベント ・コミュニティセンター（イベント） ・空き地 防災テント 	<ul style="list-style-type: none"> ・主催 自治会 ・町内全員（対象者） ・支援者 北区役所 ゴミ袋建設課 収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教える ・海岸清掃と防災キャンプを一緒にやる ・広報誌を工夫する ・楽しみとなる企画作り（景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会） ・活動内容を詰め込みすぎない企画（大事）づくり ・清掃 アルファ米のたきだし ・カレー 豚汁 ・アパート主に参加呼びかけを頼む ・危険な場所の情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉の清掃をしない人が増えている ・ゴミが散乱している モラルの低下？ ・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・アパートと交流がない ・児童の交通事故が不安 ・地震時の津波が心配
<ul style="list-style-type: none"> ・地引綱 ・合同 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月最後の日曜日 	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会 ↓ ・育成協、コミュ協 ・松浜自治振興会 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の予算で地域の掲示板 ・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教える ・催事の準備を通して交流 ・人が来れば防犯につながる ・若い人が多い消防団の活用 ・地域外の人も呼ぶ ・回覧板の充実 ・海の危険性を教える ・イベントの日“花火” 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミが散乱している モラルの低下？ ・外国人との言葉の問題（コミュニケーション） 留学生が参加している ・地震時の津波が心配 ・コミュニティの希薄化、疎遠化

各グループの行動計画（案）のまとめ（松浜小学校区②）

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・町内で老若男女が集まり何かの大会 ・町内運動会 ・元旦マラソン ・ソフトボール大会 (昔はやっていた) ・若い人が参加したいと思うような行事をアンケートで調べる ○野球大会 ○将棋大会 ○麻雀大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・春と秋 ・春休み ・試験が終わる頃 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学グラウンド→(避難場所) ・高い所にあるので(小学校は少し低い所にある) ・コミュニティセンター ↓ ・北地区スポーツセンター 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長が呼びかけ ・主催はコミュ協 ・青年部 ・消防団 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内対抗バケツリレーゲーム等を行う ・地域にとけこむ先生がいると、小・中学生も呼びやすい ・育成協とコミ協の協議 ・小学校の連絡網をうまく使う ・若い人が多い消防団の活用 ・広報誌を工夫する ・催事の準備を通して交流 ・自治会が地域の人の能力を引き出す ・楽しみとなる企画作り (景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会) ・集まってもらったら5分でよいから、防犯・防災の話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体での防災リーダー育成が必要 ・会議参加者が固定化している
<ul style="list-style-type: none"> ・防犯・防火パトロール 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例は12月 1回/年 ↓ ・近い将来は 1回/月 	<ul style="list-style-type: none"> ・松浜小学校区全体 	<ul style="list-style-type: none"> 活動主体 ・自治振興会 ・コミュニティ協議会 ・育成協 参加者 ・各自治会の防犯員 ・コミ協、育成協のメンバー ・昼間に地域にいる人 支援者 ・自治振興会自身 ・警察の方や消防の方 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治振興会、育成協とコミ協等の協働 ・小学校の連絡網をうまく使う ・小学校の登下校にあわせて実施する ・若い人が多い消防団の活用 ・町内の人がいれば行きやすいので、各町内から一人は必ず出席 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国人やロシア人の防犯問題 ・犯罪の不安や出火の心配が解消 ・地域全体での防災リーダー育成が必要 ・松浜地区だけで対応できるのか不安
<ul style="list-style-type: none"> ・青空サロン ・青空バザール ・カラオケ大会 ・その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回 ・夏と秋 7月、10月 2回/年 	<ul style="list-style-type: none"> ・松浜園の下 ・市場通り ・松浜商店街 + ・松浜小学校グラウンド 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協福祉部(主催) ・買い物に来る近隣住民(参加) ・松浜園(老人ホーム)(支援) ・部活帰り中学生 ・地区外の人もある ・コミ協(支援) ・商店会 ・自治振興会 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨でもつかえる場所 ・コミ協から新しいテーブルとイスの用意 ・もっとPR ・危険な場所の情報交換 ・楽しみとなる企画作り (景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会) ・公共施設を使いやすくする ・学校を活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居世帯に情報が伝わるか心配 ・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・アパートと交流がない ・児童の交通事故が不安 ・地震時の津波が心配 ・多世代の参加者が増える
<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操祭 ・バーベキュー 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回 夏 日曜 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・700~800人集まる ・親子で来れば倍 	<ul style="list-style-type: none"> ・生ビール販売の収益を資金源とする 	